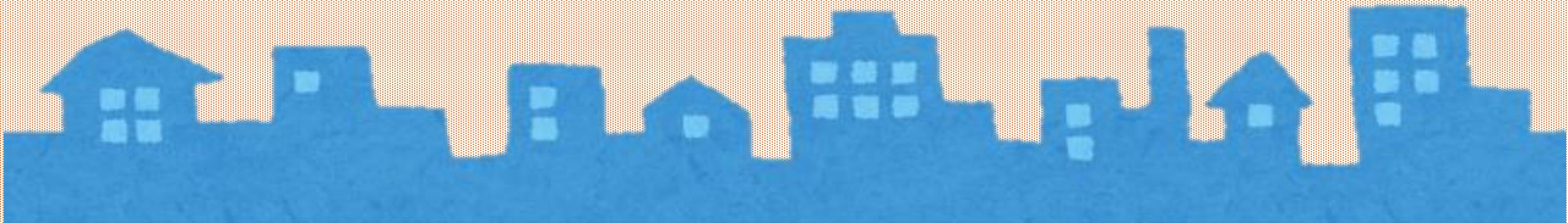
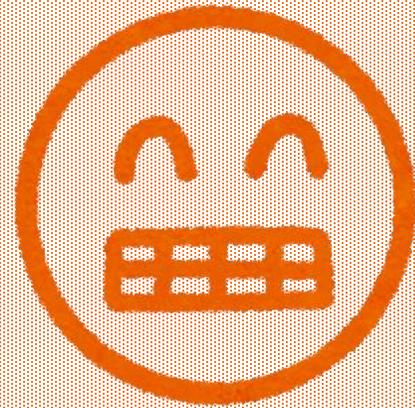


地域課題を共有・協議する場
助けあいプラットフォーム



人々の暮らし方が多様化してきている中、
地域の福祉課題が複雑化・重層化してきています。

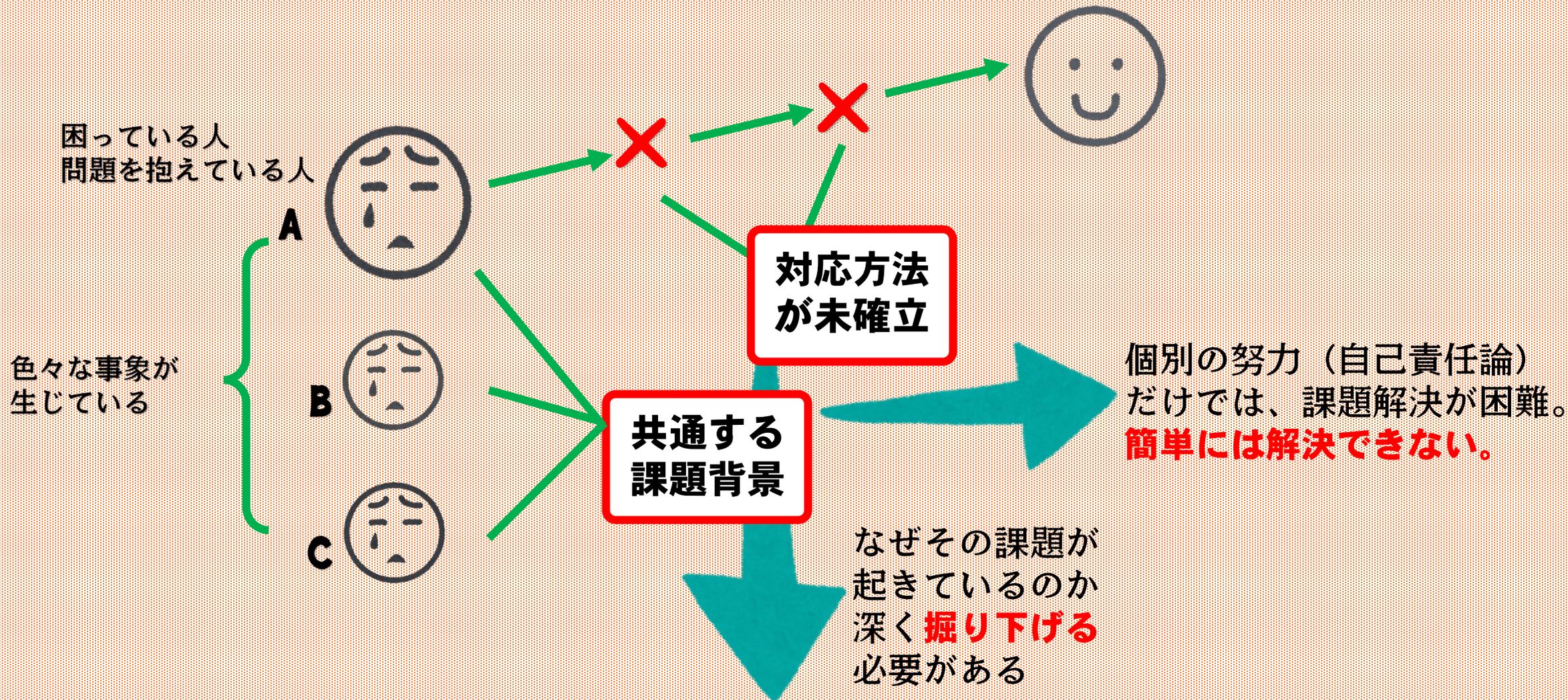
子育てと親の介護を
一人で行っていて、
心身ともに限界・・・



80代の親と50代
の子の2人暮らし。
地域とのつながりが
なく将来が不安・・・

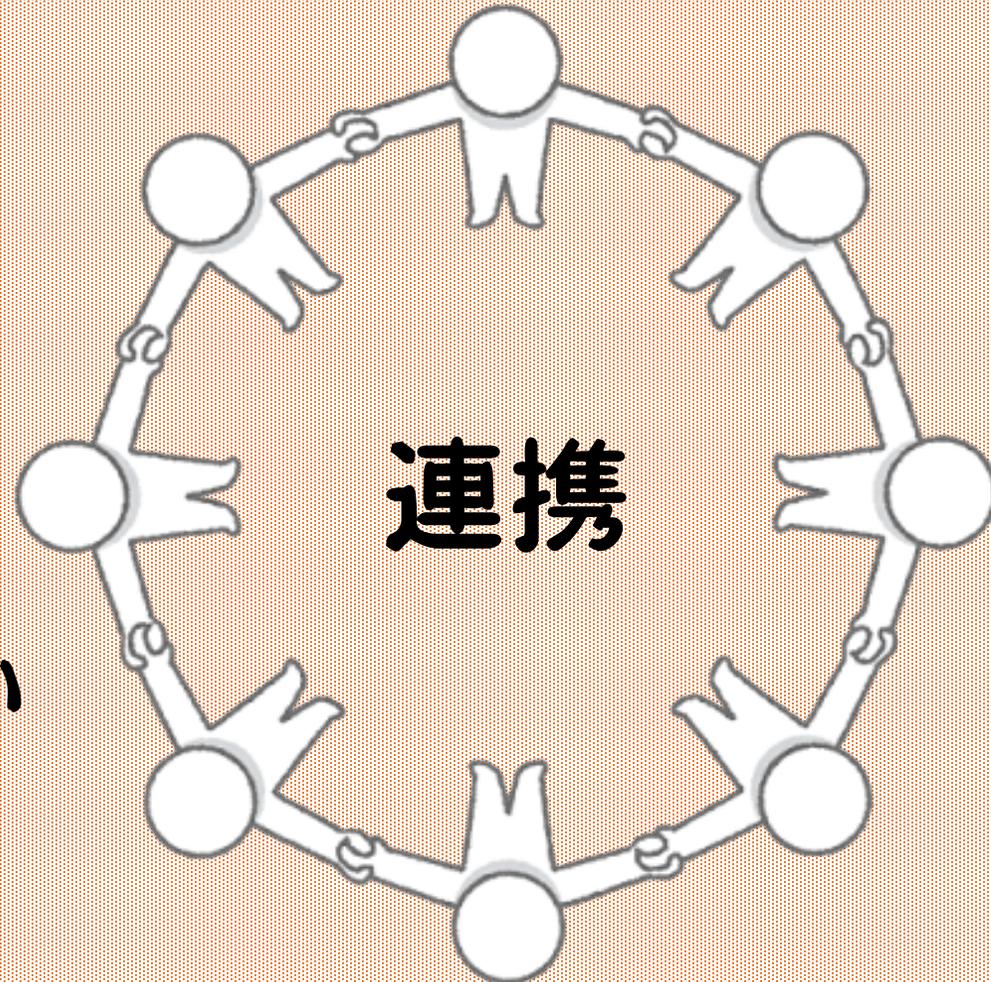


その課題を解決するためには、ひとつの団体だけでは解決が困難な“課題の壁”があります。



この壁を乗り越えるためには、地域住民、行政、社会福祉法人、区民活動団体、専門家などの関係機関（者）がそれぞれの強みを活かし、連携して解決に取り組む必要があります。

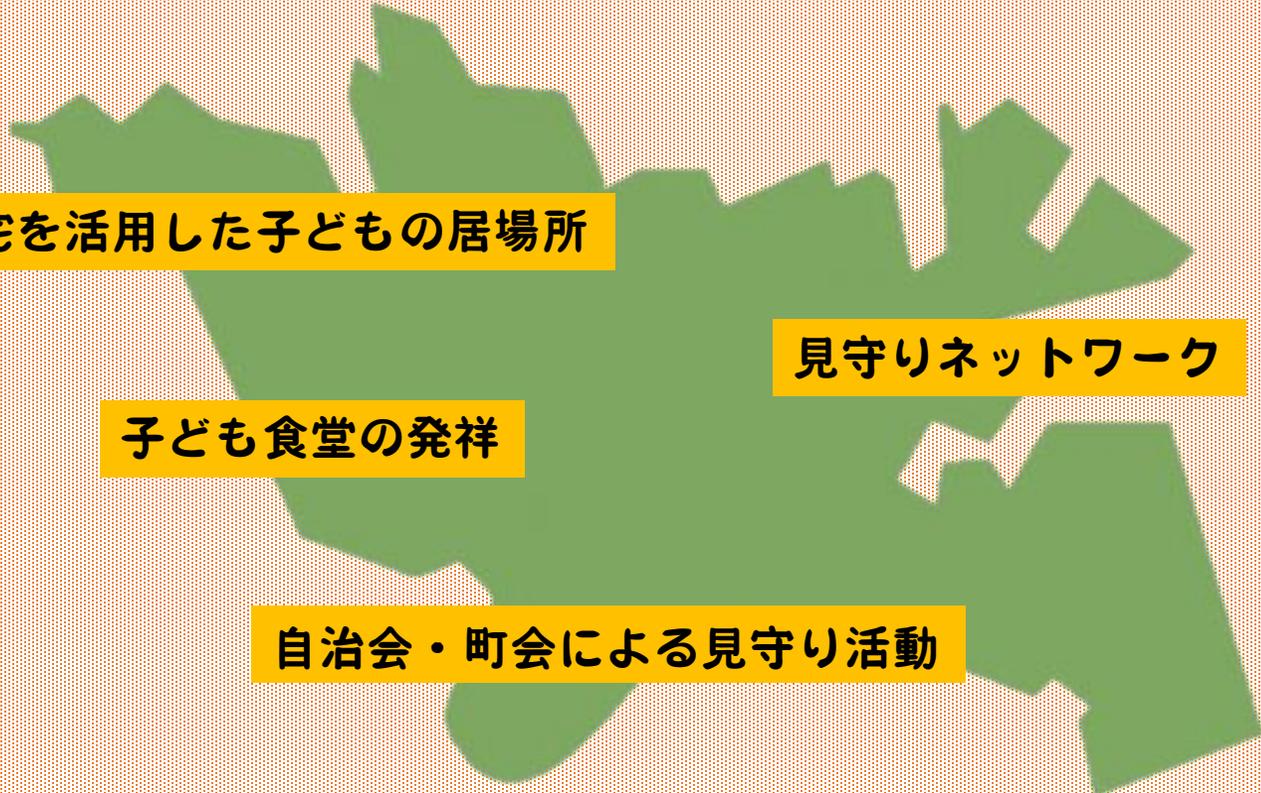
正解がない



完成していない

個々の対応での
限界がある

大田区には、すでにたくさんの区民活動や自治会・町会活動が盛んに行われていて、その中には全国的にも先進的な取り組みがあることが特徴と言えます。



自宅を活用した子どもの居場所

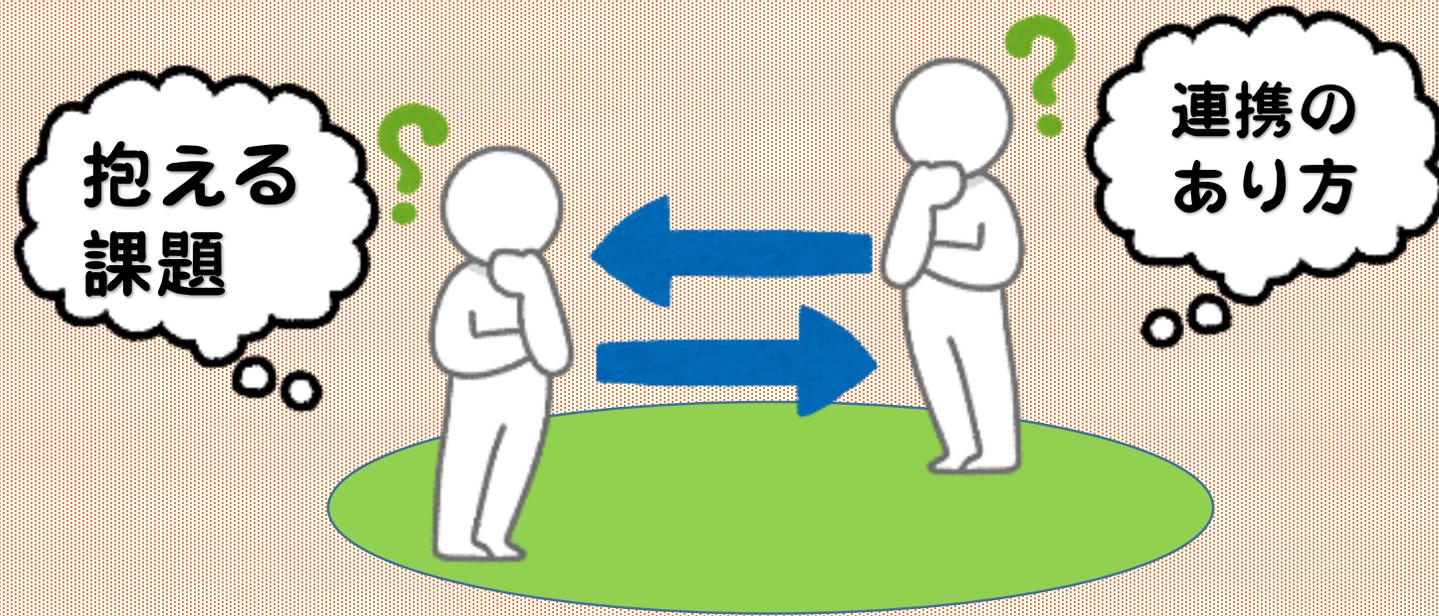
見守りネットワーク

子ども食堂の発祥

自治会・町会による見守り活動

**新たな事業を生み出すことより、
連携強化による効果に期待ができます。**

しかし、「それぞれが抱える課題」「連携のあり方」に相違があるままで、連携がうまく図れるだろうか？



専門、立場の違う人が集まると話し合いが難しくなる。

課題認識が違う

人は関心あるものを見る

判断基準は経験からくる

そこで、地域住民・団体自らが地域の福祉課題を**共有**し、
解決の糸口を探るための**場づくり**が必要だと考えました。

それが



地域課題を共有・協議する場

「助けあいプラットフォーム」事業

正解がないからこそ、課題を共有しながら、
試行錯誤する、話し合う場が必要

助けあいプラットフォーム事業は、地域共生社会の実現をめざしております。そのために、まず話し合いのテーマを「子ども」から進めることにしました。

大田区では、平成29年3月に「おおた 子どもの生活応援プラン（大田区子どもの貧困対策に関する計画）」を策定しております。

このプランで大田区社会福祉協議会は、「地域の力を結び、課題の解決に取り組む」としています。



当面の対象者を「その対象地域で福祉の活動をしている方で、子どもの課題解決に関心のある方」とします。

「助けあいプラットフォーム」事業の立ち上げ方

【初回】 4回連続講座

ステップ
1

お互いの活動を知る



ステップ
2

それぞれの立場から
見える課題を共有



ステップ
3

見えてきた課題を
掘り下げて本質を探る



ステップ
4

連携して取り組めること
足りない機能を把握



地域課題の現状把握と
話し合いの場の下準備が完了

「助けあいプラットフォーム」事業の本格始動

【初回】
4回連続講座

【月1回開催】本格始動へ



話し合いの場
＜ニーズ把握＞

勉強会
＜インプット
・リソース把握＞

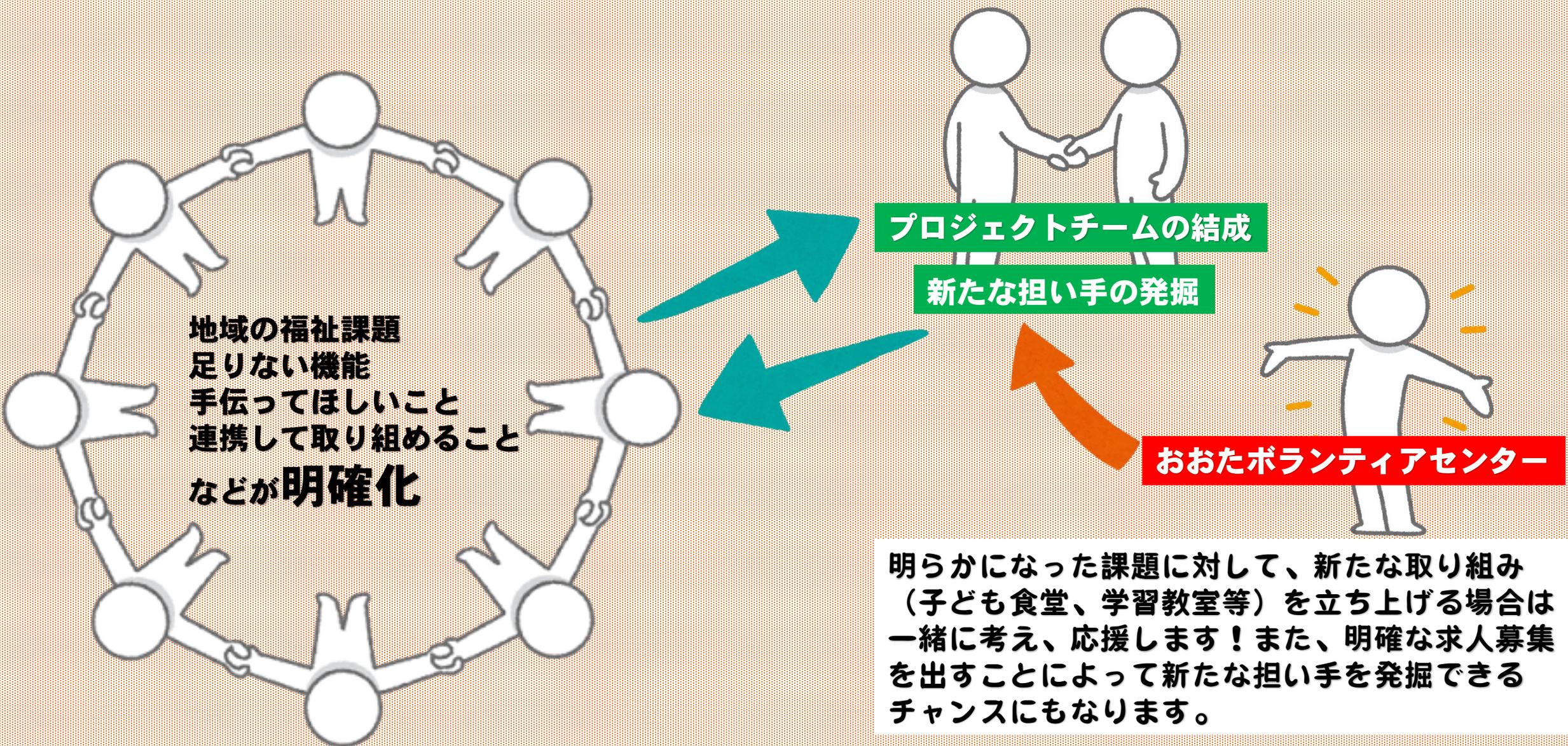


大田区社会福祉協議会

場が前へと進むように
守り立てる進行
(ファシリテーション)
をします。

地域の課題や時代の変化を常に共有することで
連携の取りやすい環境を整備

「助けあいプラットフォーム」事業によるメリット



地域共生社会の実現に向けて、連携して取り組む 「地域づくり」を進めていきます！

